

三 建 土 第 7 5 5 号
平成20年10月20日

国土交通省道路局 殿

三島市長 小池 政臣



今後の道路行政についての意見・提案について（提出）

平成20年9月19日付け国道企第37号で依頼がありましたことにつきまして、別紙のとおり提出いたします。

担 当 建設部土木課

TEL 055-983-2638

FAX 055-973-6722

E-mail doboku@city.mishima.shizuoka.jp

① 道路行政全般について改善すべき点、要望や提案など

1 真に必要な地方道路を支えるための道路特定財源の確保と、基礎的インフラの整備促進

地方においては、幹線道路網・高速交通ネットワーク等のインフラ整備は、地域活性化や観光振興を図るための必須条件である。

特に多極分散型、地域分担型（ポリセントリシティ）都市形成における三島市の立地優位性は当市のみならず、静岡県東部地域における交通の要衝を生かした核都市としての都市基盤整備が望まれている。

中部圏が日本の東西経済圏の中心であるように、三島市は中部圏と首都圏の中間に位置し、首都圏との連携が強い地域であり、高次都市機能の強化や国際観光交流の玄関口として、交流、活力、環境、安全、安心面からの都市インフラ整備が急がれる地域である。

今後、東駿河湾環状線が一部供用開始されることで、東名から東駿河湾環状道路を利用しての新たな高次都市機能の導入や、産業誘導等が可能となるので、政策的に積極的な事業推進を図るため、東駿河湾環状道路や国道1号、国道136号の整備を重点的、効率的に進めて頂きたい。

2 防災対策の推進

集中豪雨や大規模地震等の災害発生時に、迅速な救援活動や緊急物資輸送のための広域的な救援ルート確保は必要不可欠であることから、主要幹線を補完する第2東名の早期完成を始めとして、現有の道路インフラや橋梁の耐震補強、法面保護対策等の社会資本整備の充実強化をお願いするものである。

②-1 地域の現状と抱える課題

静岡県三島市

○ 現 状

- 1 市街地において、国道1号、国道136号等の幹線道路が接続しているため、通過交通が市内に混入し、生活道路の多くで交通混雑が発生しています。
また、箱根中腹の山中地区においては、東西の主要幹線である国道1号が既存集落を縦断しており、住民の安全が常に脅かされていると共に、振動や騒音にも常に悩まされている状態であります。
- 2 当地区は神奈川県西部と伊豆半島を結ぶ基幹区間でありますが、急峻な地形や国立公園の指定等により、広域的なアクセス道路に限られ、その交通需要に対してインフラが脆弱であります。
- 3 企業立地が進む北駿地域(御殿場市、裾野市等)と、新幹線三島駅を結ぶ南北の幹線道路となる県道三島裾野線が狭く、道路渋滞箇所となっており、道路効率が悪く、生活道路を圧迫しています。

○ 課 題

- 1 通過交通を効果的に処理するため、東駿河湾環状線、大場・函南IC(仮称)の早期完成を図り、広域的な幹線道路網を整備することや、幹線道路を補完する生活道路網の整備を併せて進めていく必要があります。
- 2 静岡県東部と神奈川県西部を結ぶ主要幹線である国道1号や、135号を補完する伊豆湘南道路の整備、地域観光支援のため、観光シーズンには慢性的渋滞箇所となる国道1号南二日町交差点改良工事を早急に進めていく必要があります。
特に伊豆湘南道路については、県を越えた関連市町が伊豆湘南道路建設促進期成同盟会を組織し、整備促進に取り組んでいるため、今後とも国に対して強く働きかけを継続していく必要があります。
- 3 北駿地域と新幹線三島駅を南北につなぐ幹線道路が必要とされており、国道246号から国道1号、国道136号へつなぐ道路を整備する必要があります。

②-2 地域の目指すべき将来像

便利で快適なまちづくり

三島市は、高速道路ネットワーク(東名高速から東駿河湾環状道路)及び幹線道路(国道1号・国道136号)、静岡県東部圏域内の関係市町をつなぐ広域の市街地環状道路等の整備による道路網の拡充と、首都圏までひかり号で36分、こだま号で57分と交通の利便性が高く、1日6千人を超える通勤通学者が利用する在来線、新幹線を活用しての鉄道網の整備充実など、都市のインフラ整備を推進することで交通、交流、活力の創出効果等を図っていく。

交通インフラが整備されることにより、三島市は静岡県東部圏域における東西南北の交通の要衝として中核都市としてのウエイトが高まってくるものと思われる。

また企業立地の進む北駿地域(裾野市、御殿場市等)と観光伊豆の玄関口に位置するため、南北の幹線道路網等都市インフラ整備を図る。

特に東駿河湾環状道路岡ノ宮ICから塚原ICまで約10kmの来春の開通や、富士山静岡空港の開港に伴い、海外も含めた産業、文化、観光等の交流が進むため、塚原ICを新たな観光箱根への西の玄関口として位置付けていく。

今後、神奈川県西部との広域的ネットワーク網の形成を図り、国道1号笹原・山中バイパスの整備促進を図り、生活・観光道路ルートの整備などを計画的に進めていく。

また、道路の安全性、快適性、及び防災対応等、増大する交通ニーズと市民の良好な日常生活を支え、安全で効率的な道路整備により、安全、安心、効率的な都市形成を図っていく。

今後の道路行政についての意見・提案

様式 ④

③ 道路施策の重点事項(代表事例、期待する効果や評価等)

静岡県三島市

○ 重点事項	○ 代表事例	○ 期待する効果や評価等	○ その他
・地域観光支援による活力の向上	・東駿河湾環状線の塚原ICまでの一部供用開始と以南の早期完成、国道1号南二日町交差点の早期整備	・全線が開通されると、沼津岡ノ宮ICから塚原ICが一部供用開始されることで観光箱根への玄関口が整備されることとなる。 また通過交通が効果的に処理されることとなり、箱根や伊豆等の観光地とのアクセスが改善される。	
・総合的な交通安全対策	・国道1号笹原山中バイパス(4.3km)の早期整備	・バイパス整備により、現道が生活道路としての機能のみとなり、住民の安全確保と住環境の改善を図ることができる。また山中は江戸時代、箱根町と三島宿の間の宿として栄え、歴史文化遺産が残されており、観光面での再整備を図っていくことが可能となる。	
・経済活力の向上	・国道246号と新幹線三島駅をつなぐ幹線道路の新設	・北駿企業群と新幹線三島駅を結ぶことにより、新たな企業誘致及び時間距離の短縮等経済効果を高める。	
・地域間交流の活性化	・伊豆湘南道路の整備促進	・静岡県東部地域と神奈川県西部地域を結ぶ伊豆湘南道路を整備することにより、物流の効率化、観光の活性化、都市間交流による新たな地域文化の創造等、当圏域の発展に貢献するとともに首都圏及び関西方面からの観光目的車両の分散による交通渋滞の緩和につながる効果も期待できる。	